

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2375601016		
法人名	社会福祉法人 嘉祥福祉会		
事業所名	グループホームあま恵寿荘		
所在地	愛知県あま市二ツ寺西高須賀2番地		
自己評価作成日	平成23年11月25日	評価結果市町村受理日	平成24年 3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2375601016&SCD=320&PCD=23
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成23年12月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日常生活の中で利用者が常に主体となれる様に、職員主導ではなく利用者から自発的に動け、思いを伝える環境作りや関係作りに努めている。また、利用者と家族との関係性が途切れないように、できる限り家族が行事などで参加しやすい取り組みを行っている。今年3月に行った雛祭り行事で家族の方にも参加してもらい、その時に家族が撮った写真をDVDにしホームへ寄付して下さり、家族会の際に他の家族にも披露したりしている。また、複合施設である特性を生かし、ADLに合わせて機械浴の使用をしたり、他部署で行われている絵手紙教室に参加するなど柔軟な対応をすることもできる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの理念である「その人らしさ」を追求して、日々の支援に取り組んでいる。庭に出て、職員と野菜作りを楽しんだり、台所に立ち職員と一緒に活躍したりと、自分らしさを大切に生活を送っている。
 利用者の居場所がホームであることを、職員の誰もが理解して支援している。利用者の表情も穏やかであり、笑顔が絶えないのが印象的であった。
 地域との交流は少ないものの、併設事業所全体での協力体制や活動も多い。法人内がさらに活性化するための取り組み事例を期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	以前より掲げている「その人らしさ」を大切に、地域の中で普通の生活を送ってもらえるよう支援し、できる限り家庭からかけ離れた介護にならないよう、常日頃から職員それぞれが考え実践するように努めている。	法人理念である「その人らしさ」を基本とした、温かく居心地のよいホームを目指している。職員ミーティングで個別の対応について検討し、その人らしさを追求している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	週1回ボランティアの方に来てもらい地域の方との交流の機会を設けたり、地域行事である敬老会や福祉祭りに参加したりし、地域との交流に努めている。	ホーム横の地域交流スペースでは、喫茶コーナーがあり、事業所内の他のサービス利用者との交流の場となっている。また、傾聴ボランティアの来訪は、利用者の楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で、利用者家族としての迷いやどう向き合っていけば良いかなどの相談を受け、その対応について日頃の介護の中から思うこと等を含め伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、日頃の様子や行事報告等が主ではあるが家族や役所の職員、ボランティア等より質問・意見交換を行うことで福祉祭りへの作品の出展の話も進んでおり、内容のあるものとなっている。	法人内グループホームと合同で会議を行っている。ホームの活動報告を行い、参加者と意見交換している。	ホームの主役でもある利用者を運営推進会議のメンバーに加えることで、「その人らしさ」を支援する体制は、さらに強固なものとなることが期待できる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃より何かあれば連絡を取り、その都度担当者に相談し協力関係を築けるように努めている。また、運営推進会議への参加も継続的に行っており、会議の中でお互いの情報交換もでき、市の行事参加へもつながっている。	運営推進会議に行政担当者の参加が継続的にあり、ホームの情報は市に伝わっている。市内のグループホームとの交流会があり、市町村からの連絡や情報交換する機会がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	門扉の施錠は夜間は防犯上行っているが、日中に関しては玄関や出入り口は施錠しておらず、居室の窓も施錠は本人にまかせてある。言葉かけ等についても職員間でお互い注意しあうように努めている。	見守りを大切にされた支援は、職員が身体拘束のリスクを理解しているからこそその支援といえる。玄関横の事務所が、見守り安全の役割を果たしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体で内部研修を行うなど高齢者虐待防止に努めている。また出来る限りお互いの言葉口調や態度等から苛立ちが感じられるようなことがあれば早めにフォローするよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修等で理解を深めるようにしている。昨年、日常生活自立支援事業のサービスを使っていた方がいた為少しずつ職員への理解も深まってきている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時には書面と口頭の両方にて家族への説明を行い、その都度確認をしながら、不安や疑問点がある場合、納得してもらえるよう十分説明を行う。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の中で家族や役所の方、ボランティア等地域の方々から意見や要望をもらい、それらを現場に持ち帰りミーティング等で随時話し合っている。また、施設全体の取り組みとして家族アンケートをとったりし運営に反映させている。	法人全体でアンケートを実施して、結果を分析し運営に反映させている。「利用者担当があるが、どなたが担当者かわからない」との声があり、来訪者向けの掲示板を作成している。	職員と利用者の家族とが交流する機会を設けるなど、ホーム独自の取り組みにも期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やミーティング等で意見や提案を聞く機会を設けており、また日頃から直接聞くなど職員も管理者へ要望や相談を日常的に行っている。	ミーティングの場で、管理者を交えて意見交換をしている。また、管理者は相談・意見・提案などを受け入れ、職員の気付き等を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者により半年に一回は個々の職員の勤務状況について代表者への報告を行っている。また管理者はその都度職員の思いを聞き、出来る限りそれぞれの職員の特性を生かした仕事ができるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎回の全体会議で内部研修の機会を設けるようにするなど研修の機会は確保しているが外部研修についてはなかなかできていないのが現状である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修等の参加にて同業者との交流を図り、意見交換しているが頻繁には出来ない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来る限り声掛けを頻繁に行い、独りになり不安な気持ちにならないよう努めている。またケース記録とは別に入所1カ月は細かく行動や本人の思い、体調等を別紙に記録しケアに反映している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時等には必ず声掛けをし、施設での状況の報告や自宅ではどうであったかを聞くなどし、家族がどんな要望を持っているのか耳を傾け、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	どんな支援が必要なのか本人や家族との面談の中で見極め、併設施設相談員やケアマネまたは他部署の職員等と相談・連携を図り対応するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者の生活の中にお邪魔するという考えのもとでケアにあたっている。利用者への強要でなく、出来る限り自発的に家事等も行ってもらえるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に施設での状況報告をし、その都度、家族の意見を聞き相談している。また月1回の通信の中でも報告をして、行事への参加のお願いや面会の機会が増えるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	回数は少ないが利用者が生活していた地域での敬老会等の行事参加や外出を行っている。また併設施設へ移った利用者のもとへこちらから訪れたりGHへ来てもらうなどしている。	併設のケアハウス・サービス利用時の友人がホームを訪れるなど、交友関係が継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係については、あまり過剰に職員が介入しないようにしているが、トラブル等がある場合は間に入り悪化しないよう気をつけている。また新入所の利用者が孤立しないよう、さりげなく輪に入れるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も必要に応じて相談にのり、併設施設へ入所となった利用者に対しては居室訪問したり、家族や併設施設職員からの相談にも応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り利用者との会話や表情等から本人の思いや意向を把握するように努めて、またそれが難しい場合、家族からアドバイスをもったりしている。ケース記録には思いや意向を記入しケアプランに活かせるよう努めている。	日常の会話の中から、本人の思いを聞き出している。ケース記録に記載し、職員間で共有している。介護計画には、発した言葉(意向)をそのまま記載して、計画作成に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の際には家族やケアマネ等にこれまでの生活について聞き、また併設施設サービスを利用していた場合は相談員や職員にも利用経過を聞き、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日時間ごとにケース記録へ利用者の心身状態や思いを記録し、職員全体が把握できるように努めている、また、ケース記録には個々の配慮項目を載せ、今現在の利用者の状態を全職員が把握でき、共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日のケース記録にて利用者の個々の状態を把握し、月一回ケアプランやケアを見直し、アセスメントを行う。それらをもとに全職員がカンファレンスにて意見を出し合い最終的に介護計画を作成している。	日々の記録から利用者の状態把握を行い、担当職員がモニタリングしている。また、全職員でケースカンファレンスを行い、今後の方針について検討している。	沢山の人が協力して、本人の生活を支えている。介護計画に、本人に必要な関係者や社会資源を盛り込み、本人らしさの支援に活かしてほしい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日時間ごとにその都度気付いたこと、職員間で共有したほうがよいことを、個別のケース記録に記入している。またその情報をもとに介護計画の見直しも行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	複合施設である特性を活かし、利用者の状態に応じて柔軟な対応をしている。例えば入浴について特殊浴の使用を行ったり、他部署の絵手紙教室への参加をしたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	中学校の体験学習の場として交流をしたり、施設行事の中でも地域のボランティアの方を慰問に呼んだりし交流の場を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医については入所時に家族へ希望を確認しているが、今現在は協力機関を主治医と選ばれている方ばかりである。かかりつけ医は月2回の往診に限らず、その都度連絡をとりいつでも医療が受けられるよう支援している。	ホームと提携医の連携もあり、利用者から医療面で信頼を得ている。提携医の往診後には受診内容を家族へ報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃より何かあれば連絡を取り、その都度担当者に相談し協力関係を築けるように努めている。また、運営推進会議への参加も継続的に行っており、会議の中でお互いの情報交換もでき、市の行事参加へもつながっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際には家族とともに出来るだけ立ち会い、入院中も病院のケースワーカーと連絡を取り合い利用者の状態把握に努めている。また介護内容や利用者の生活スタイル等の情報提供をすることで早期に退院が出来るよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の時点である程度重度化や終末期についての話を家族へして、方向性や意見を家族内でも話し合っていたりするように契約時にお願いをしている。また利用者の状態が変わるごとに、少しずつ家族やDrと話し合い、GHでできることを伝えている。	契約時に重度化した場合について、ホームの方針を説明している。家族や主治医と話し合いを重ねて、今後の方向性を導き出している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修等で急変時の対応等の勉強会は行っており、防災訓練の際、怪我の想定も行い、災害時の応急手当の仕方をどう対応出来るのかシュミレーションするなどしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設全体で日中・夜間とそれぞれを想定した避難訓練を定期的に行っている。また地域の消防署との合同防災訓練も行い、助言等を受けている。	消防署の協力の下に、大規模な防災訓練を実施している。訓練の報告は消防署ホームページに記載されており、地域への啓発につながっている。	災害時には、ホームが避難所の役割を果たす可能性もありうる。市町村とも協力して、さらなる取り組みを推進することを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃より職員同士で声掛けや対応について注意をしい、本人のペースで日常生活が送れるように、急かしたり抑制することのないように気をつけている。	居室の扉は、「利用者が安心するから開けてほしい」との要望があり、開放している。プライバシーに対する配慮を考えて、本人の好みに合わせたのれんを手作りして掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何か行うたびに確認の声掛けや表情等から注意して、出来る限り本人の思いがくみ取れ、希望に応じれるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に利用者の方には声掛けの際に「～で良かったですか」などの声掛けをし、急かせたりすることなく利用者一人一人のペースに合わせる様に心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に出来るだけ衣類を選んでもらうなどし、その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう努めている。毎年夏祭り際には全員に浴衣を着てもらいおしゃれを楽しんでもらえるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の料理については野菜を切ったりなどできる部分で参加してもらい、つけ分けやお茶の準備などそれぞれの役割として行ってもらっている。また食後の皿洗いも利用者と職員が一緒に行っている。	訪問日は、ホームで収穫したサトイモを入れた「けんちん煮」であった。サトイモの下ごしらえを、利用者が積極的に手伝っている。男性利用者が台所に立ち、活躍する姿が印象に残る。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量については毎日各利用者のチェックをし、水分摂取量についても必要のある利用者にはチャック表にて把握できるよう努めている。またおかずをあまり食べられない利用者に好きなイナリ寿司におかずをつめるなど工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・夕については利用者それぞれの状態にあわせて声掛けや見守り・介助を行って、それぞれに応じた口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りリハパンやパッドの使用を減らせるよう、日中はパンツに変えたり、パッドも小さいものに変えるなどしている。またトイレの回数を増やしたり、ポータブルトイレ使用者に日中はトイレを使用してもらえるよう声掛け見守りを行っている。	リハビリパンツから日中は布パンツに変更して、自立に向けた支援を行っている。冷水を飲む、排便リズムを整えるなど工夫した結果、便秘が軽減して精神的にも安定した事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	冷水を飲んでもらったり、歩く機会を増やしたり、おなかのマッサージをしたり出来る限り自然な排便が出来るよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	夕方から夜は勤務体制上で難しいが、日中は基本的にはいつでも入浴してもらえるよう対応している。本人希望で毎日入浴されている方もいる。入浴拒否される方にもなぜしたくないのか考えながら無理強いすることないよう気をつけている。	毎日入浴が出来る体制を整えており、入浴が大好きな利用者は楽しみにしている。下肢低下などにより、一般浴室での入浴が困難な場合には、併設特養の機械浴で安全な入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は決まっておらず、毎日寝る時間はそれぞれ違っている。日中はそれぞれソファに座ってうたたねしたり居室にて昼寝をしたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については変更のあるたびにDrより確認し、また薬の本でも調べ副作用等について注意している。服薬管理は各利用者ごとの状況に合わせて、渡し方を変えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者それぞれが何か出来ることを役割として行ってもらい、生き生きと生活できるよう心掛けている。カラオケや他部署で行っている絵手紙教室へ通ってもらうなど趣味が楽しめるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い時期には花見や福祉祭り等、近所の喫茶店に行くなどの外出を行っているが、日常的には難しい。	花見などに出かけているものの、自立度の低下も関係して出かける機会が減少している。ホーム内でのレクリエーションや、併設事業所への訪問などを充実して楽しみを増やす工夫がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理が難しくても、売店等で購入する際は本人にお金を払ってもらったりし、また家族の了承を得て本人管理をし、自分で自販機でジュースを買って訪問された知人にふるまったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から訴えがあれば、2Fの公衆電話にて家族へ電話してもらったり、知人へ書いた手紙を職員が送付し支援している。また毎月の通信の中で本人にメッセージを書いてもらったりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には四季が感じられるよう、おひなさまや七夕、クリスマス、また正月の鏡餅を飾るなどしている。また写真も食堂・廊下へと掲示している。夏には中庭にグリーンカーテンとしてゴーヤを育てる過度な日差しにならないよう工夫している。	庭には季節の野菜を植えて、利用者が手入れをしたり、ひなたぼっこを楽しんでいる。玄関前のスペースは、利用者が作った季節の作品を飾り、ギャラリーとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事するテーブル以外にはソファを設け仲の良い利用者同士で話したり、洗濯物を畳んだり、新聞や雑誌を読むことができるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具の持ち込みの際には本人・家族と相談しながら配置場所について決めたり、居室に掲示スペースを設けて家族の持ってきた写真や孫の写真を飾ってもらうなどしている。	自宅から引っ越してきて、自室を自由にレイアウトして生活を楽しんでいる。また、好みに応じて自室にカーペットを敷き、自宅での生活に近づけている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共同トイレに張り紙をしたり、居室はそれぞれののれんを飾ったり目印をつけたりし工夫している。		

(別紙4(2))

事業所名 グループホームあま恵寿荘

目標達成計画

作成日: 平成 24年 3月 27日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議のメンバーの中に主役である利用者参加がない。	年に1~2回でも利用者が会議に参加できるようにする。	利用者が参加しやすいように会議という形にこだわらず、行事を行って、そこへ今までのメンバーが訪れ参加する形をとる。	12ヶ月
2	10	家族が日常生活の状況が現在の通信や面会ではわかりづらく、意見も出にくい。	家族が意見が伝えられる場や機会を増やす。	ホーム独自のアンケートを行ったり、ご家族が見学でなく参加のしやすい行事を増やす。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。